

## 現業労働のユニフォームによるイメージアップ について

### Improving the Image of Blue-collar Working Clothes

福 村 愛 美  
Manami Fukumura

#### ABSTRACT

Recently young people often refuse jobs in factories and construction sites. The purpose of this study is to investigate whether changing the color and style of workclothes can improve the image of factories and construction sites.

In the present study we gave a questionnaire to female college students to find out what image young women have of such jobs, and what points are needed to improve the image, and what kind of work clothes are best.

The analysis of those results were summarized as follows :

- (1) It was thought that such work areas were dangerous and difficult. That image brings about a shortage of available workers.
- (2) It is important for such work areas to employ women so that the work areas become brighter.
- (3) It was thought that the image of work clothes was old and out of fashion.
- (4) It was generally thought that the colors of work clothes were dark and gray.
- (5) It was thought that cotton was the suitable material for work clothes, and a plain dress was the suitable pattern for work clothes.

#### 1. 緒 言

土木建設業や工場などでの現業労働は、3 K職場と言われ若者離れが深刻な問題となっている。現業労働は肉体労働が主体であるため、若年労働者なしでは成り立たない職場である。そのためどのようにして若者をこの職場にひきつけるかが、重要な課題となっている。まず3 Kのイメージから少しでも脱却することを考えなければならない。若者はイメージに大きく左右されるため、若者に好まれるイメージをアピールする必要がある。この観点から現業労働者の作業服に着眼したいと思う。最近では極少数であるがこの業界に女性が徐々に進出して来ていて、女性にとってはユニフォームは大きな関心事である。すでに若い女性を採用している企業は、作業服にも工夫をこらしている企業も見られる。女性に重要な事柄が男性にとって無関心な事であるはずがないと思われる。

作業服の条件としては、安全性が高く動きやすい衣服であり、かつ耐久性が必要である。素材としては通気性、保温性、防水性が高いなどの点を考慮した上でデザインを考えなければならない。その条件に合っさえいれば、従来の形にとらわれることなく、日常のファッション

と同様に自由な発想のもとでデザインすることが可能だと考えられる。現在でも有名デザイナーによる作業服があるが、従来の形からさほど飛躍したデザインはあまり見られない。作業服が見直されてきている今こそ既製の作業服から脱皮して、作業服の選択の幅を広げてもいいのではないかと考える。

今回は作業服や作業現場のイメージ、また今後作業服がどのように見直されていくべきかを調査をもとに明らかにすることが、本研究の目的である。

## 2. 調査方法

調査は、大分県立芸術文化短期大学に在学する 満18才から21才までの学生270名を対象に行った。調査方法は、授業の始業または終了後に調査票を配布し、写真はモニターに映写したのを見てその場で質問事項について記入してもらい回収した。有効回収数263票で、回収率は97.4%である。調査内容は、土木建設業などの職場についてどのようなイメージをもっているか、3 Kと言われる職場でどのような点を改革したらイメージアップにつながるか、どのような作業服が理想的であるか、また現在企業が使用している作業服や、平成3年11月18日に大分県主催の“建設フェスタ”に出品した作品の評価も含めて、どのような作業服を着用してみたいと思うかなどである。調査項目は、工場や土木建設の作業場などでの業務、労働に関するイメージ(7項目、5段階評価)、作業服に対するイメージ(10項目、5段階評価)、作業服のデザインの写真に対する評価(5項目、5段階評価)、理想的な作業服についてなどである。分析方法は、調査データを項目別に単純集計し、土木建設業などの職場のイメージや現業に従事する労働者の作業服のイメージ、実際の作業服の評価、今後の理想的な作業服についてなどを、集計結果をもとに明らかにした。

## 3. 結果と考察

調査結果から次の事柄が明らかになった。図1の工場や土木建設の作業場などの実地の業務、労働に関するイメージについては、きつい職場であると思うかという問いに対して、大変そう思うと答えたものは52.2%、まあそう思うと答えた者は43.8%と、ほとんどの者がきつい職場であるというイメージを持っている。汚い職場であると思うかという問いに対しては、まあそう思うと答えた者が31.5%、どちらともいえないと答えた者が27.9%、あまりそう思わないと答えた者が30.3%と意見が分れた。この結果から、必ずしも汚い職場であるというイメージが強いとは、言えないと考えられる。危険な職場であると思うかという問いについては、大変危険な職場であると考える者が41.5%、まあ危険な職場であると考えるものが44.8%と、両者を合わせると大多数を占めることから、やはりこのような職場は危険であると考えられている。工場や土木建設業のような職場の若者の労働者不足の原因として考えられるのは、きつい職場だからという理由が第一に上げられる。調査結果からもこの理由を選んだ者が62.6%と圧倒的に多く、次に危険な職場であるからという理由が21.2%と続く。やはり現代の若者は、きつい仕事とか危険な仕事は嫌い、楽で見た目にも良い職種につきたがる風潮であるといえる。最近はこのようは職場に、少数ではあるけれど女性も参加しつつある。この事についてどう思うかという問いに関しては、まあ有意義であると思うと答えた者が40.8%と多く、大変有

## 現業労働のユニフォームによるイメージアップについて

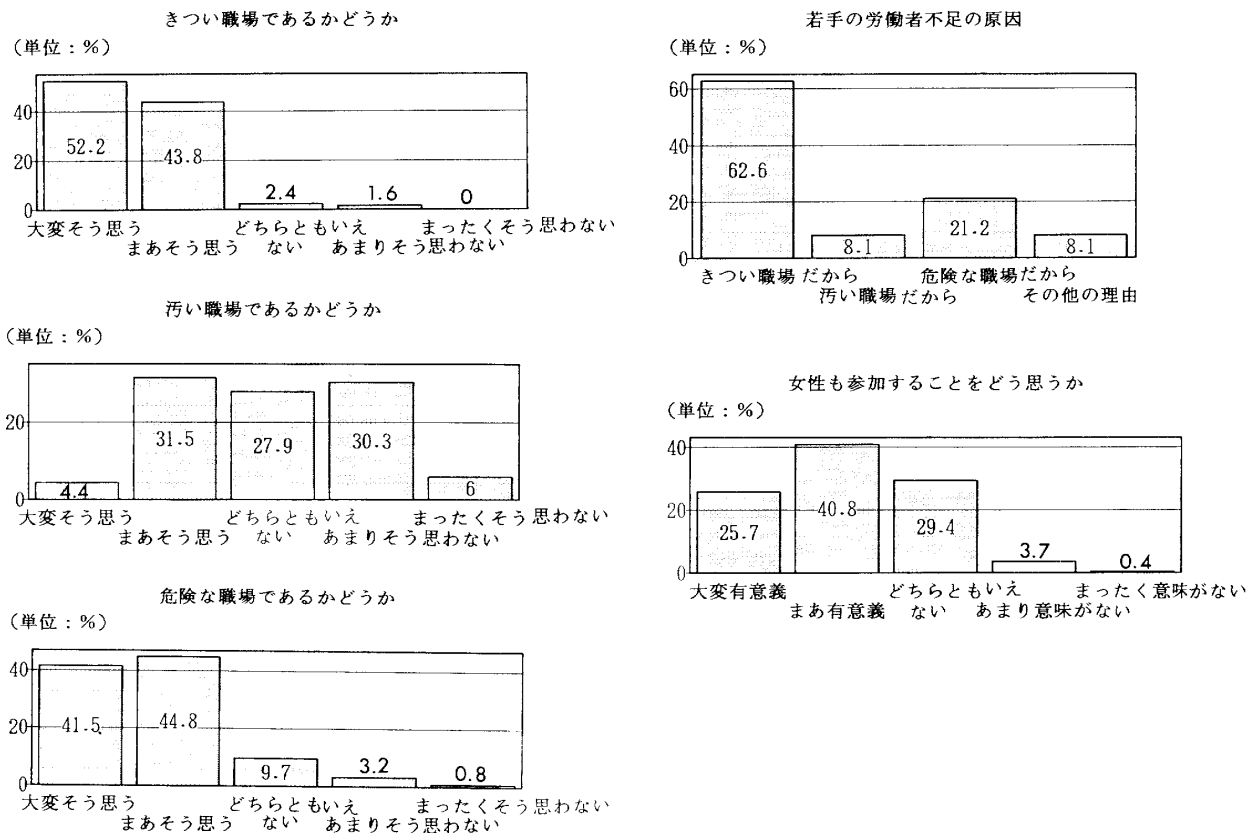


図1. 工場や土木建設の作業場や、そこでの業務、労働についてのイメージ

意義であると思うと答えた者も25.7%なので、全体の3分の2が有意義であると考えている。有意義と答えた理由として多かったのは“女性の行動範囲が広がる”“男女平等で良い”“イメージが女性の参加によって和らぐ”“女性ならではの気遣いやアイデアが生かされる”などである。逆に有意義でないと答えた理由としては“女性には危険である”とか“力仕事は無理である”などがあげられていた。3K職場のイメージアップをするにはどのような点を改革したらよいかについては、“給料や待遇を良くする”“おしゃれな衣服を着用する”“スマートな明るい雰囲気にする”などが多かった意見で、変わった発想としては“放送手段を使ってイメージを変える”という意見もあった。

図2の作業場で働く人々の作業服については、デザインが古いと思うかという質問では、まあそう思うが42.4%と一番多い。おしゃれであると思うかどうかでは、あまりそう思わないが45.5%と多いので、作業服のイメージは、デザインが古くてあまりおしゃれではないと思われる。着てみたいと思うかどうかについては、まったくそう思わないと答えた者が48%で、あまりそう思わないと答えた者も31.1%とほとんどの者が着たくないと考えている。これは、アンケートの対象者が若い女性なので、当然の結果ともいえる。動きやすいと思うかどうかについては、まあそう思うと答えた者が47.8%と多く、機能性は高いと考えている。安全性は高いと思うかという質問では、どちらともいえないと答えた者が40.2%、あまりそう思わないと答えた者が30.3%なので、衣服には安全性に関しての機能はあまりないと考えられている。着脱は簡単であると思うかという質問については、まあそう思うと答えた者が32.4%、どちらともいえないと答えたものが31.2%と多かったが、これは実際に着用しているわけではないので

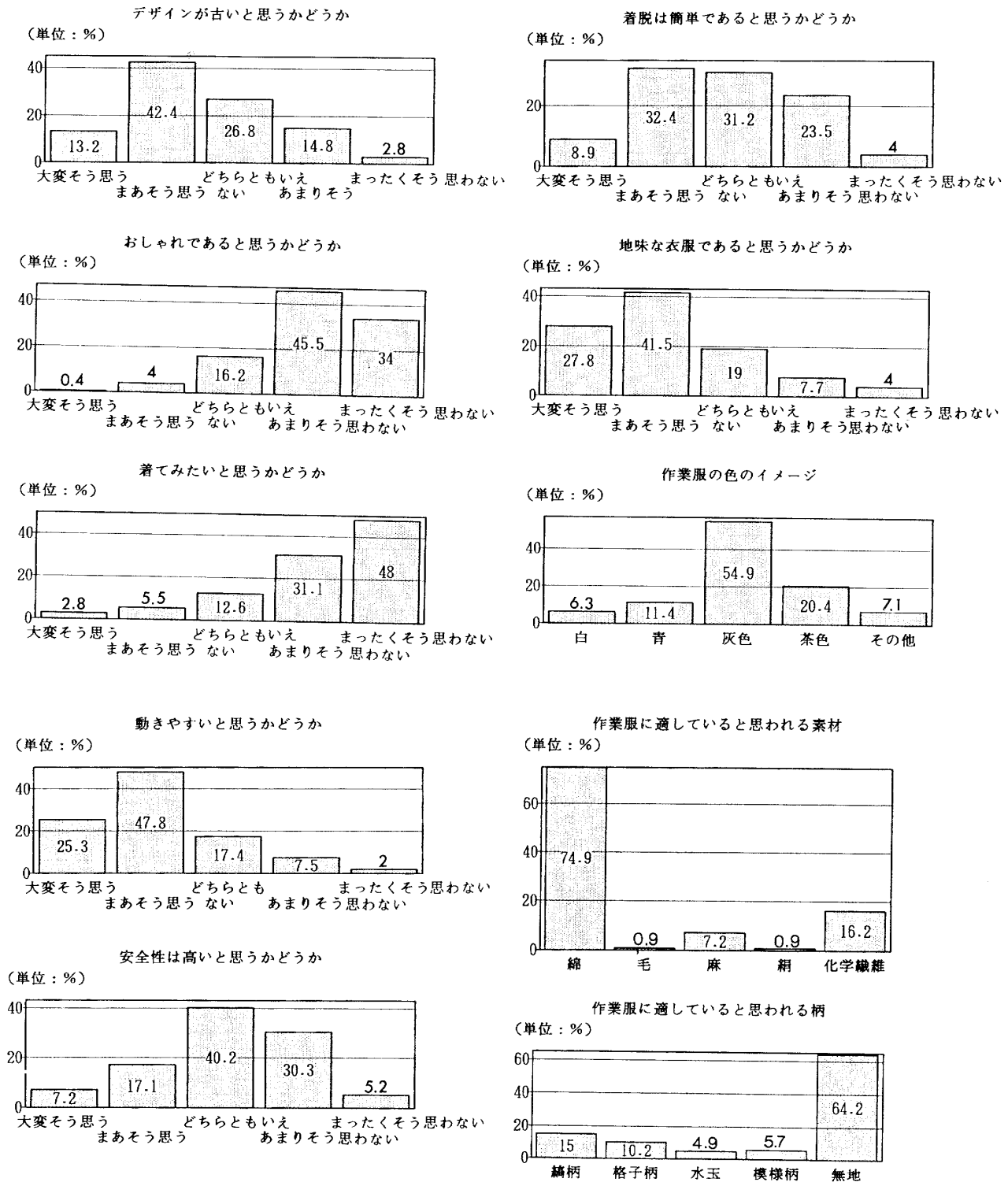


図2. 作業場で働く人々の作業服について

## 現業労働のユニフォームによるイメージアップについて

あいまいな解答となったと考えられる。地味な衣服であると思うかという質問については、まあそう思うと答えた者が41.5%、大変そう思うと答えた者が27.8%と多いので、やはり作業服は地味な衣服のイメージが強い。作業服の色のイメージとしては、灰色が54.9%とだん然多く、作業服は暗いイメージであるのがわかる。作業服に適していると思われる素材は、綿が74.9%と圧倒的に多く、汗をかく仕事が多いため、風合が良く吸湿性も高い素材が適していると思われるのは当然であると考えられる。意外に感じたのは、少数ながらも化学繊維が16.2%もあることで、素材の丈夫さから選ばれたと思われる。既製の作業服はほとんど無地が主流であるが、柄があったらどうかという問いに対して、やはりほとんどは無地が良いと答えてるが、縞柄が良いと答えた者が15%、格子柄が良いと答えた者が10.2%と、シンプルな柄なら良いという支持も多少はあると考えられる。その他としては、流行の柄などで作ったらいいのではという意見もあった。

図3の作業服のデザインについては、写真〔1〕～〔6〕は既製の男性用作業服で、写真〔1〕～〔4〕は Kansai uniform のブルゾン又はシャツとパンツの組み合わせで、写真〔5〕、〔6〕は DAIRIKI の半袖ジャンパー又はシャツとスラックスを組み合わせたものである。この既製の作業服がおしゃれであると思うかという問いに対して、全体的には、どちらともいえないとあまりそう思わないと答えた者が多く、イメージで解答を得た時より、実際に写真を見てもらった時の方が、評価が多少良くなっている事がわかる。中でも写真2のデザインが比較的人気があった。着てみたいと思うかという質問については、全体的にはイメージで解答を得た時とほぼ同じ傾向で、着たくないと考えている者が大変多いといえる。特に写真3と写真6は、着たくないデザインであることがわかる。

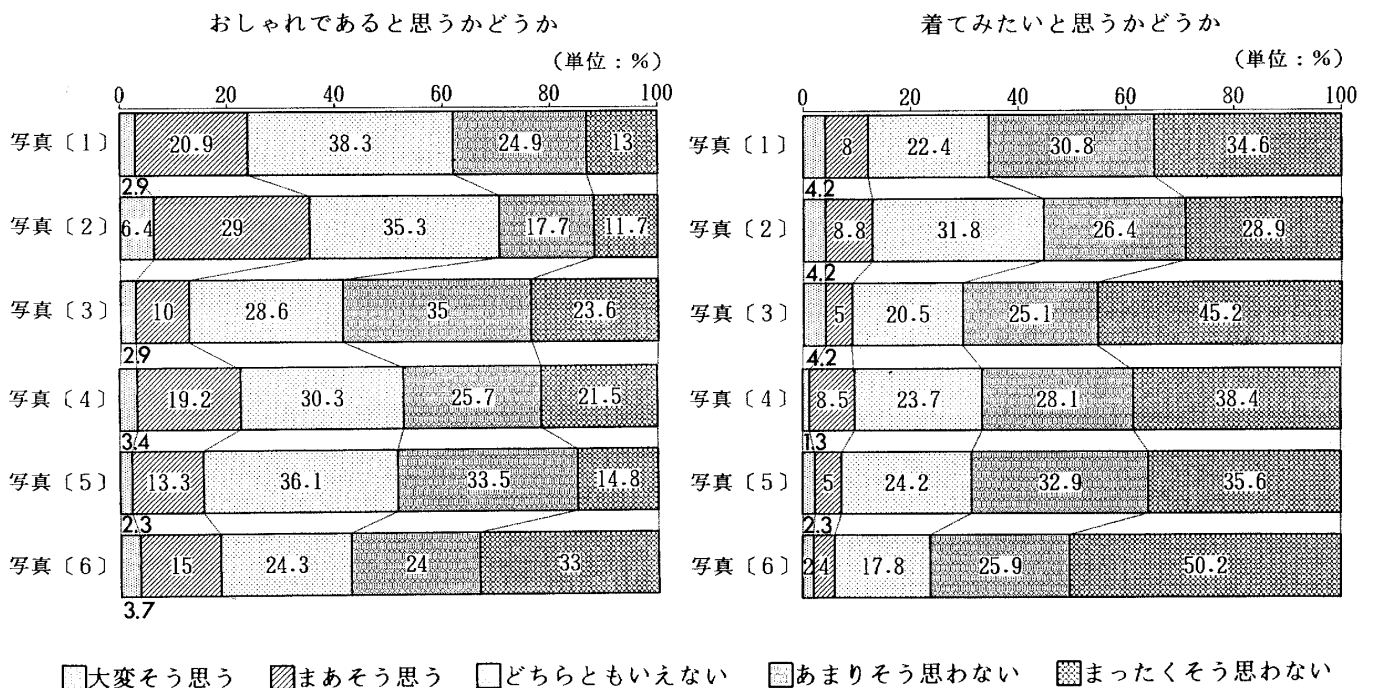
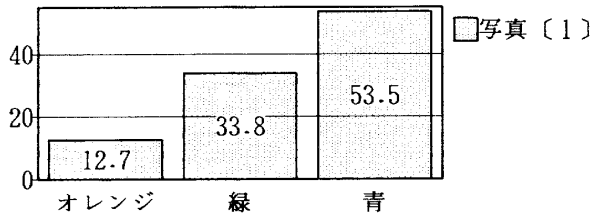
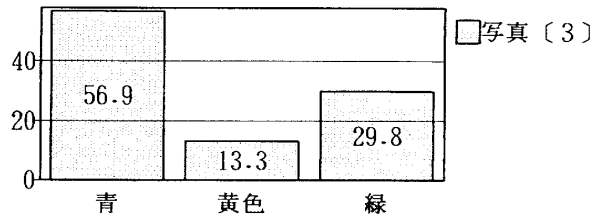


図3. 作業服のデザインについて

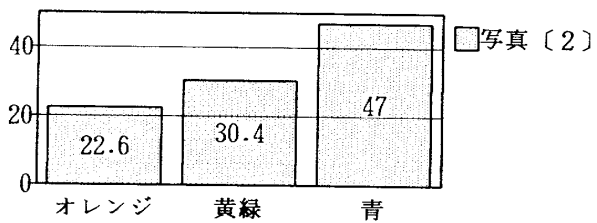
(単位：％)



(単位：％)



(単位：％)



(単位：％)

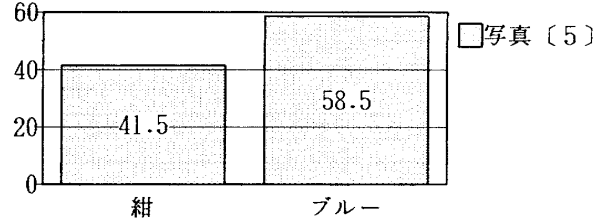


図 4 . 作業服の色について

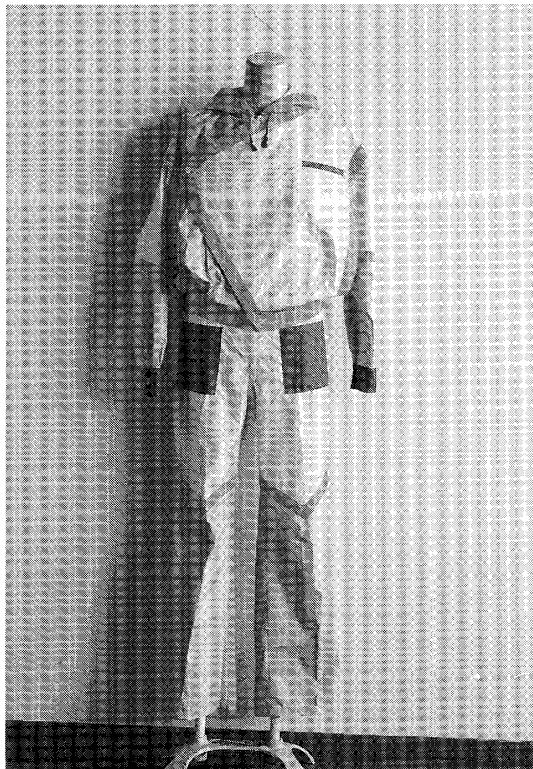


写真 1 . “建設フェスタ”出品作品

(単位：％)

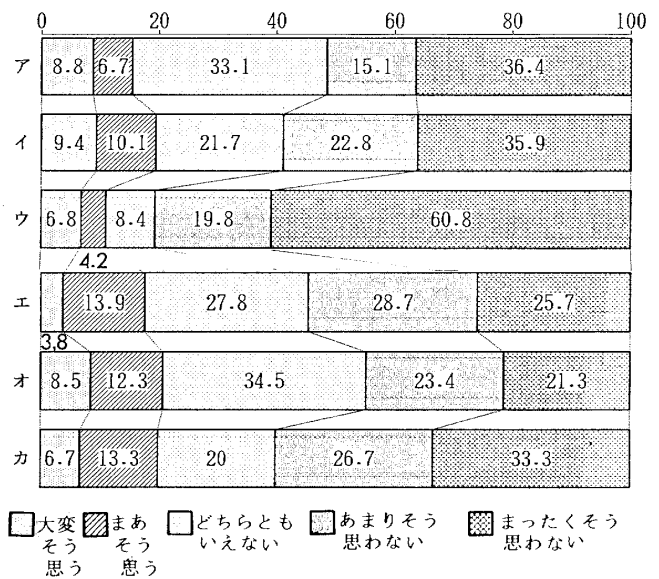


図 5 . “建設フェスタ”出品作品の評価について

図4の作業服の色については、同じデザインで、一番良いと思う色を選んでもらった結果としては、どのデザインでも青の支持率が一番高くなっている。作業服の色のイメージとしては灰色でも、実際にデザインと色を見た場合には、青色がふさわしいと考えられている。写真1の“建設フェスタ”出品作品は、ハングライダー用の強くて軽い繊維を使用し、蛍光色を組み合わせた、若者をターゲットにした作業服をデザインした。図5の“建設フェスタ”出品作品の評価については、(ア)はデザインが古いと思うか、(イ)はおしゃれであると思うか、(ウ)は着てみたいと思うか、(エ)は動きやすいと思うか、(オ)は安全性は高いと思うか、(カ)は着脱は簡単そうであると思うかという評価項目である。(ア)の質問に関しては、まったくそう思わないと答えた者が36.4%と比較的多いので、デザインは古くないと評価されたといえる。その評価以外は、全体的に辛い評価であった。特に着てみたいと思うかという質問については、まったくそう思わないと答えた者が60.8%と多く、若い女性には受け入れられない結果となった。またどのような作業服が理想的であるかという問いに対しては、“動きやすいもの”とか“安全であるもの”とか“おしゃれであるもの”などの意見が多くあげられた。

#### 4. 要 約

若者離れの目立つ現業労働のイメージや、作業服のどのような点を改革したら、イメージアップにつながるかなどについて調査し、分析した結果、次の様な事柄が明らかになった。

- (1)工場や土木建設業などの職場は、きつくて危険な職場であると考えられている。またこのようなイメージが、労働者不足の原因であると考えられている。
- (2)現業労働への女性進出は、土木建設業や工場などの職場が活気づくという様な理由で有意義であると考えられている。
- (3)作業服のイメージは、デザインが古くておしゃれではないと考えられている。
- (4)作業服の色は、灰色のような暗い色のイメージを持たれている。しかし実際にデザインと色を見た場合には、青色がふさわしいと考えられている。
- (5)作業服の素材は、綿が適していると考えられている。また柄は無地が適していると考えられている。

#### 引用文献

- 1) DAIRIKI, '92 SPRING&SUMMER COLLECTION (1992)
- 2) DAIRIKI, '91-92 AUTUMN&WINTER COLLECTION (1991)
- 3) Toyo uniform co.,ltd. 1992 Spring&Summer Collection (1992)